

## ～教科・領域のポイント～

## 【生活】

## 1. 学習指導要領改訂のポイント

## (1) 目標について

## ア 新旧教科目標の比較

## ○ 現行学習指導要領

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

## ○ 新学習指導要領（育成すべき資質・能力の整理）

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能の基礎）
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。（思考力・判断力・表現力等の基礎）
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

キーワード

**基礎**

## イ 教科目標の構成について

新学習指導要領では、大きく分けて2つの要素で構成されている。

一つは、生活科の前提となる特質、生活科固有の見方・考え方、生活科における究極的な児童の姿である。

- ①「具体的な活動や体験を通して」… 生活科の前提となる特質
- ②「身近な生活に関わる見方・考え方を生かし」… 生活科固有の見方・考え方
- ③「自立し生活を豊かにしていく」… 生活科における究極的な児童の姿である。

二つは、生活科を通して育成することを目指す資質・能力を、(1)、(2)、(3)と示している。

なお、(1)(2)に示した資質・能力の末尾に「の基礎」とあるのは、幼児期の学びの特性を踏まえ、育成を目指す三つの資質・能力を区別してはっきり分けることができないことによる。これにより、生活科が教育課程において、幼児教育で育成された資質・能力を存分に発揮し、小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にするという生活科の機能が明示された。

## ウ 生活科において育成を目指す資質・能力について

(1)は、生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったりするのかを示したものである。具体的な活動や体験を通して獲得する個別的な気付きや関係的な気付き、具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能などである。

(2)は、生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするかを示したものである。それにより、ある気付きと別の気付きとの共通点や相違点、それぞれの関係や関連が確認されたときなどに、**気付きの質が高まった**ということが出来る。このような「深い学び」の実現が求められる。

(3)は、どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むかを示したものである。生活科では思いや願いを実現する過程において、自分自身の成長に気付くことや活動の楽しさや満足感、成就感などの手応えを感じることで、意欲と自信につながり、自らの学びを次の活動や生活に活かしたり、新たなことに挑戦しようとしたりする姿を生み出す。

## (2) 生活科の内容について

生活科の学習内容は、次のとおりである。

〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕、〔身近な人々、社会及び自然と関わる生活に関する内容〕、〔自分自身の生活や成長に関する内容〕の三つに整理された。

生活科の「資質・能力」を育成するために、現行の学習指導要領と書き方は違うが、9項目の内容に大きな変化はない（下記表参照）。

階層	内容	学習対象・学習活動等	思考力・判断力・表現力の基礎	知識及び技能の基礎	学びに向かう力
学校家庭及び地域の生活に関する内容	(1)	・学校生活に関わる活動を行う	・学校施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える	・学校での生活は様々な人や施設が関わっていることがわかる	・楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする
	(2)	・家庭生活に関わる活動を行う	・家庭における家族のことや自分でできることなどについて考える	・学校での生活は互いに支え合っていることが分かる	・自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする
	(3)	・地域に関わる活動を行う	・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える	・自分たちの生活は様々な人や場所とかかわっていることが分かる	・それらに親しみや愛着を持ち、適切に接したり安全に生活したりしようとする
身近な人々、社会及び自然とかかわる活動に関する内容	(4)	・公共物や公共施設を利用する活動を行う	・それらのよさを感じたり働きを捉えたりする	・身の回りにはみんなが使うものがあることやそれを支え合っている人々がいることなどが分かる	・それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする
	(5)	・身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を行う	・それらの違いや特徴を見付ける	・自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く	・それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする
	(6)	・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を行う	・遊びや遊びに使うものを工夫してつくる	・その面白さや自然の不思議さに気付く	・みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする
	(7)	・動物を飼ったり植物を育てたりする活動を行う	・それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける	・それらは生命をもっていることや成長していることに気付く	・生き物への親しみをもち、大切にしようとする
	(8)	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う	・相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする	・身近な人々とかかわることのよさや楽しさが分かる	・進んでふれあい交流しようとする
自分自身の生活や成長に関する内容	(9)	・自分自身の生活や成長を振り返る活動を行う	・自分のことを支えてくれた人々について考える	・自分が大きくなったこと、自分ができるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる	・これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いを持って、意欲的に生活しようとする

～を通して（具体的な活動や体験）

生活科の内容の全体構成

～ができ

～が分かり  
～に気付き

～をしようと  
する

低学年の児童によき生活者としての資質・能力を育成していくためには、実際に対象に触れ、活動することを通して、対象について感じ、考え、行為していくとともに、その活動によって対象や自分自身への気付きが生まれ、それらが相まって学びに向かう力を安定的で持続的な態度として育成し、確かな行動へと結び付けていくことが大切である。

### (3) 学習指導の改善・充実

#### ア 低学年教育の充実

今回の改訂では、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行することが明示された。また、幼稚園教育要領等においては、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」がまとめられ、幼児期の遊びや生活を通じて育まれる自立心や協同性、思考力の芽生えなどの大切さについて共通理解が図られるようになった。

これを手掛かりに、生活科を中心としたスタートカリキュラムを工夫し、幼児教育との接続がより図られることを期待したい。

〈幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の10項目〉

- (1) 健康な心と体
- (2) 自立心
- (3) 協同性
- (4) 道徳性・規範意識の芽生え
- (5) 社会生活との関わり
- (6) 思考力の芽生え
- (7) 自然との関わり・生命尊重
- (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- (9) 言葉による伝え合い
- (10) 豊かな感性と表現

新設

幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っている。  
学校全体で取り組む。

#### イ 他教科との関連

今回の改訂では、低学年教育の充実の観点から、さらに他教科との関連を意識し、これまで例示されてきた国語科、音楽科、図画工作科はもちろんのこと、低学年の全ての教科等と生活科との関連を図り、指導の効果を高めていくことが求められている。

低学年の児童と生活とつながる学習活動を取り入れ、教科横断的な視点で教育課程の編成、実施上の工夫を行うことが重要となる。生活科と他教科等において、学んだことがどのように関連付いていくのかを意識し、児童の思いや願いを生かした学習活動を展開することが大切である。

#### ウ 学習指導の改善

学習指導では、具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、活動や体験をして気付いたことなどについて多様に表現したり、多様な学習活動を行ったりする活動（第2章第5節第3の2の(3)）が明示された。児童は、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を行いながら、気付きを比較したり、分類したり、関連付けたりするなどして分析的に考える。

さらには、試す、見通す、工夫するなどの学習活動を行うことで、より質の高い気付きを生み出すことにつながる。そのためにも、児童が自らの気付きを振り返ったり、互いの気付きを交流したりするような活動を、必要に応じて適切に行うことが重要となる。

## エ 指導計画の作成と内容の取扱い

〈指導計画作成上の配慮事項〉

### 1 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る際に、留意することは。

- (1) 一つ一つの単元や年間を通した授業の積み重ねによって、総合的に自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成すること。
- (2) 単に思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけでなく、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視するなど、気づきの質を高めることを意識すること。

### 2 「児童の発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通して学習活動を設定する」際に留意することは。

九つの内容を実現する学習活動が、教える側の一方的な都合で計画されるのではなく、児童の発達の段階や特性に適合しているかを吟味した上で単元を構成し、2学年間を見通して効果的に配置することを今まで以上に心掛けることが必要である。

### 3 幼児教育との関連で留意することは。

#### (1) 低学年教育の充実と生活科の位置付け

生活科が、低学年における教育全体の充実を図る上で重視すべき方向を表しており、教科等間の横のつながりと、幼児期からの発達の段階に応じた縦のつながりととの結節点であることを意識することが重要である。

#### (2) 他教科との関連

他教科等との関連では、生活科と他教科等との合科的・関連的な指導を行ったり、低学年の児童の生活とつながる学習活動を取り入れたりして、教科等横断的な視点で教育課程の編成、実施上の工夫を行うことが重要である。

それにより、生活科における学習活動が他教科等での題材となったり、生活科で身に付けた資質・能力を他の教科等で発揮したり、他教科等で身に付けた資質・能力が生活科において発揮されたりして確かに育成されるなど、一層の学習の効果が期待できる。

#### (3) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、児童期の初期に目指す姿とも重なるものであり、小学校においては、こうした具体的な育ちの姿を踏まえて、教育課程をつないでいくことが重要である。

#### (4) 小学校入学当初に大切にしたいこと

小学校入学当初において、児童が主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能になるようにするためには、何より幼児期の学びと育ちに対する理解を前提として、児童が安心して学校生活に慣れ、自らの力を発揮しながら主体的に学習者として育っていく過程を創り出すことが重要である。

#### (5) スタートカリキュラムの編成

幼児期の教育と小学校教育の発達の特性を踏まえた学校段階等間の円滑な接続の観点から、更に重要性が高まっており、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うことなどが示された。

ここでいう弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫とは、10分から15分程度の短い時間で時間割を構成したり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定したりすることなどである。

小学校入学当初の生活科を中心としたスタートカリキュラムは、児童に「明日も学校に来たい」という意欲をかき立て、これからますます重要になる幼児期の教育から小学校以降の教育への円滑な接続をもたらしてくれるものである。

#### 4 障害のある児童への指導において配慮することは。

生活科の学習は、対象への働きかけなどの具体的な体験を通して、考えたことや感じたことを表現することを特徴とする。一人一人の児童の状況等に応じた十分な学びを確保するため、例えば以下のような配慮を行うことが重要である。

ア 言葉での説明や指示だけでは、安全に気を付けることが難しい児童の場合には、その説明や指示の意味を理解し、なぜ危険なのかをイメージできるように、体験的な事前学習を行うなどの配慮をする。

イ みんなで使うもの等を大切に扱うことが難しい場合は、大切に扱うことの意義や他者の思いを理解できるように、学習場面に即して、児童の生活経験等も踏まえながら具体的に教えるように配慮する。

ウ 自分の経験を文章にしたり、考えをまとめたりすることが困難な場合は、児童がどのように考えればよいのか、具体的なイメージを想起しやすいように、考える項目や順序を示したプリントを準備したり、事前に自分の考えたことを言葉や動作で表現したりしてから文章を書くようにするなどの配慮をする。

エ 学習の振り返りの場面において学習内容の想起が難しい場合は、学習経過を思い出しやすいように、学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を活用するなどの配慮をする。

#### 5 生活科における道徳科との関連において、どのように取り扱ったらよいか。

自分自身、身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を通して、自然に親しみ、生命を大切にするなど自然との関わりに関心をもつこと、自分のよさや可能性に気付くなど自分自身について考えさせること、生活上のきまり、言葉遣い、振る舞いなど生活上必要な習慣を身に付け、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することなど、道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行うことが必要である。

## 2. 授業づくりのポイント

### (1) 一人一人の願いを確認し、活動の見通しをもつ（ねらいの明確化）

- ・対象がもつ価値をとらえ、児童に親しみやすい単元名をつける。例：「さあ おはいいり！うさぎさん」
- ・児童一人一人に、やりたい活動やその見通しをもたせる。
- ・児童一人一人が、自分の願いを十分に実現できる環境を整え、その時間を確保する。

## (2) 一人一人の追究が保障されている（めりはりのある展開）

- ・児童が対象を感じ、考え、気付いていくことができるように、対象に直接働きかけたり、働き返されたりするなど、対象との双方向のやりとりを繰り返しながら、浸り込ませていく。
- ・児童が見いだした気づきを、比較、分類、関連付けるなどして対象の共通点や相違点に気付かせたり、試行、予測、見立てるなどして新たな活動を生み出したりして、気づきの質を高めていく。
- ・児童の具体的な姿をイメージし、児童の活動のよさをとらえ、児童がそれを自覚できるように褒めたり、認めたり、問い返したりする。

## (3) できるようになったことや困ったことを表し、振り返る（ねらいの達成の見届け）

- ・一人一人の活動のよさを認め、次の活動への意欲をもたせたり自分の成長を感じさせたりする。
- ・得られた手応えや自信をもとに、新たな活動に挑戦していこうとする態度を育むことができるように学習活動の過程や成果を表現し振り返らせる活動を位置付ける。
- ・活動中における児童の姿（対象とのかかわり方、言葉、動作、表情等）や、振り返りの場面における見届けの視点（対象への気づき、願い、次時への期待、困難さ）を明確にする。
- ・一人一人の活動状況を適切に把握したり、学習活動を評価し改善したりするために、単元における具体的な学習状況を想定した評価規準を設定する。

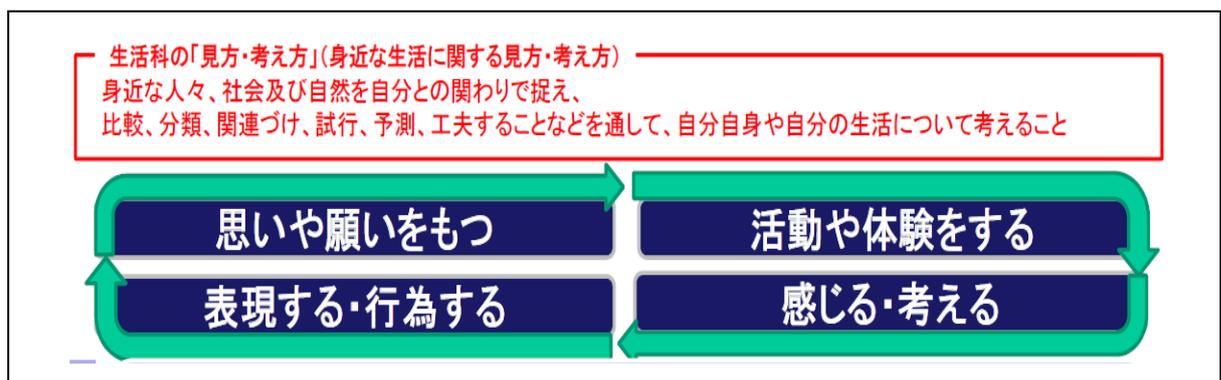
## (4) 授業実践から

ア 児童の興味・関心をとらえ、学習指導要領の9つの内容をもとに、単元全体を通して「願う児童の姿」を決め、それらにつながる学習対象、活動を設定する。

イ 児童が試行錯誤しながら繰り返し対象とのかかわることができるように、必要な場を設定したり材料等を準備したりする。

ウ 対象とのかかわりを振り返るために、学習カードやこれまでの活動の様子が分かる掲示物等を準備する。

エ 学習過程のイメージ（下図）



## (5) 授業での児童の姿等

	児童の姿	教師の指導及び助言
はじめ	1 本時のやりたいことが決まっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の願いを把握し、活動への見通しを確認する。</li> <li>・ 児童の活動への願いが十分高まっていることを確認する。(発言・表情等)</li> <li>・ 安全への配慮など、必要な注意事項を伝える。</li> </ul>
	2 どのように活動するのか、そのための材料や方法などの見通しを持っている。	

なか	3 試行錯誤を繰り返して、願いの実現に向けて活動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動への意欲を高め、素早く実際の活動に入り、活動の時間を保障する。</li> <li>・ 教師も共に活動を行ったり、見守ったりしながら、児童の活動への願いが実現するために必要な支援を行う。</li> <li>・ 活動の様子や気付きをとらえ、そのよさを児童が自覚できるように、褒めたり、認めたり、問い返したりする。</li> <li>・ 教師も共に活動し、心地よさを味わいながら共感する。</li> <li>・ 比較・分類・関連付けるなどして、対象の共通点や相違点に目を向けるよう促す。</li> <li>・ 試行・予測・見立てるなどして、新たな活動を生み出すよう促す。</li> <li>・ 児童の成長の姿をとらえ、必要に応じてグループで協同的に取り組む場面を設定する。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;">活動を通して、自分自身や自分の生活について考えさせる。</p>	
おわり	4 活動した中での気付きを言語や絵等で表現し、それを友だちと共有して、次の時間にやりたいことを明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの活動を振り返る場を設定し、本時で願う児童の姿の達成を見とどける。</li> <li>・ 教師が多様性を尊重することにより、互いの活動や作品等が異なることを認め合える雰囲気をつくる。</li> <li>・ 活動や気付きを言語や絵等によって表現するように促すことで、そのよさや自らの成長を自覚する場を設定する。</li> <li>・ 振り返りから得られた手応えや自信を全体に広げ、友だちと共有することで、次時の活動への意欲や見通しをもたせる。</li> </ul>

## (6) 授業の後で

- ・ 本時の活動の中でとらえた姿、振り返りの時間の言葉や表情、学習カード等から、単元のねらいの達成状況を見届ける。それを基に、次時に願う児童の姿を更新する。
- ・ 児童の中に生まれた新しい活動への願いや課題をとらえ、その実現に向けて、次時を構想する。

## (7) 学習指導案作成上のポイント

- ア 単元全体のイメージをもつ ～「児童の意識の流れが見えること」～
- イ 本時のイメージをもつ ～「児童の活動が見えること」～
- ウ 教師自身の思いや願いを盛り込む ～「教師の役割が見えること」～
- エ 学習活動を通して育てたい力をおさえる ～「学習を通して、育てたい力が見えること」～
- オ 具体的なポイント ※ここに示す指導案は例であり、形式を特定するものではない。

## 第〇学年〇組 生活科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

活動場所 〇〇〇

児童数 〇〇名

## 1 単元名 〇〇〇〇

(・児童が活動に対し、興味関心を喚起するような単元名を付ける。)

## 2 単元について

## (1) 児童の実態

(・児童の活動に関連した特徴、今までに経験した活動での様子などを記述する。)

## (2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

(・学習指導要領の内容(1)～(9)のどの内容を受けて設定したのかを記述する。)

(・本単元でのねらいを具体的に記述するとともに、単元を構成する上で配慮することや児童にねらいを達成させる上での教師の願いなどを記述する。)

## (3) 児童の意識

(・児童の意識の流れを予測し、**図式化**することで、活動の必然性や多様性を把握し、児童の思いや願いに即した学習活動の展開を記述する。)

それぞれの活動における児童の意識の流れ、その際の教師の働きかけを記述する。

## 3 単元の目標と評価規準

(・どのような活動を通して、どのような資質や能力及び態度を育成することを目指すのかを示す。)

(・観点別評価規準や評価の視点とともに、評価方法等を記述する。)

## 4 活動の実際

(・小単元の構成やねらい、活動内容を記述し、単元全体の活動の構成が把握できるようにする。)

## 5 本時の学習指導 (〇〇/〇〇時)

## (1) 目標

(・本時の目標を具体的に記述する。)

## (2) 展開

児童の活動	◇児童の意識 (時間)	○教師の働きかけ	●評価
<p>・本時の活動を具体的に記述する。①時間の経過にしたがって順番に記述する。②活動の構成をより鮮明に表現するために、イラストや図を使う。③また、①と②を組み合わせで記述する。</p> <p>・本時の児童の活動と教師の働きかけが、分かりやすいように工夫して示すようにする。</p>			

## (3) 備考

(・備考欄には、これまでに記述できなかった内容を書き込む。例えば、①準備するもの、②環境構成図、③ワークシート、④評価シート等を記述する。)

※ここでは、一般的な指導案のポイントを示した。実際には、学校研究主題との関連等で項目を付加していく場合がある。